

# ビジネスとアプリは一心同体

第2部: 強固なモバイル・アプリ戦略の4つの構成要素



## はじめに

エンタープライズ・モバイル管理 (EMM) のリーダーである IBM Security は、立役者としての IT の役割など、企業におけるアプリケーションの活用方法を詳しく掘り下げた 3 部シリーズの第 2 部をお届けします。

第 2 部では、企業データとネットワークをリスクにさらすことなく、ビジネス目標を推進するビジネス駆動型アプリ戦略の設計方法について説明します。

## ビジネス・アプリケーションは、発見、拡張性、持続可能性、およびセキュリティからなります。

### 強固なモバイル・アプリ戦略の 4 つの構成要素

第 1 部のビジネス用アプリケーション で説明したように、<sup>1</sup>モバイル・アプリケーションによって、従業員と顧客との関わり合い方、全般的なビジネス習慣が根本から変わりつつあります。効果的な戦略を築くことは、アプリを本当にビジネスに役立てながら、企業データとネットワークを保護するカギとなります。アプリケーションへのアプローチを成功させるには、発見、拡張性、持続可能性、そしてもちろん、セキュリティを考慮する必要があります。

### ユーザーが求めるアプリを開発する

Enterprise Mobility Exchange (EME)<sup>2</sup> によって作成された、企業のモビリティ上級職の 300 人の調査によると、企業は従業員の生産性を向上させるため、モビリティ投資の多くをモバイル・アプリに注ぎ込んでいます。

そう言うと、プラットフォームが違うだけで、いつもと同じように聞こえるでしょう。経営陣は従業員の生産性を上げ、顧客エンゲージメントを改善し、彼らの仕事と生活をよりスムーズにしたいと考えています。IT は、従業員がネットワーク上で大きな被害をこうむらず、会社が大きなセキュリティー・リスク (およびコスト) にさらされないようにと考えています。ただし、モバイル・アプリベースのビジネスを築くことで、ビジネスと IT の対立を招いてはいけません。それどころか、IT とビジネスが連携して戦略を開発することが非常に重要なのです。

まず、IT は、すべてのアプリ対応イニシアチブの全体的なビジネス目標を知る必要があります。次に、経営層とユーザー双方と時間を過ごして、顧客と従業員がデバイスをどのように使って互いにやり取りし、必要な情報にアクセスしているのか、どのような情報を利用、共有しているのか、どのような問題が生じる可能性があるのかを理解する必要があります。このプロセスは、1 つのアプリしか開発しない場合であっても、最終製品におけるギャップと不整合を避けるために、複数の事業部門とコース・ケースで実施します。IT はビジネス・サイドと連携しながら、次のことを分析する必要があります。

- そのアプリで何をやるのか? 直接的な顧客エンゲージメントに使用されるのか?
- 最も重要な機能は何か?
- どのような機能性によってそれが実現するのか?
- どのシステムにアクセスするのか?
- アプリによってどのようなセキュリティー・リスクが生じるのか? 不正ユーザーによってアクセスされたらどうなるのか?
- 考慮すべきデータ規制はあるのか?
- このアプリからどのような価値を得られるのか?

## 臨機応変なスケーリングに対応する

初期分析が完了したら、アプリの開発と導入の計画を具体的に策定できます。最初におおまかにまとめたサイズや用途に関係なく、優れた操作性を実現しながらいつでも大量にスケーリングできるモバイル・アプリを開発することが重要です。アプリに搭載するテクノロジーを選ぶときには、以下の考慮事項に沿って、最終結果であるインフラストラクチャーについて考えてください。

- どのデバイス、OS でも一貫したユーザー・エクスペリエンスを確実に実現するには?
- 構築したアプリケーション・アーキテクチャーでは、変化するユーザー数にオンデマンドで対応できるだろうか?
- バックエンド・インターフェースが追加のシステムやデータベースに同時にリンクされた場合、ネットワークへの影響は?
- 同時接続デバイスの数が増えても、ネットワークは十分に対応できるほど堅牢だろうか?
- 設計、導入、使用中のボトルネックの監視方法は?

## 変化は不可避

アプリはそのうち更新が必要になります。したがって、皆さんも長期的に思考することが求められます。サーバー上にある Web アプリとは違って、モバイル・アプリはデバイス上にあります。つまり、アプリへの定期的な素早い変更は不可能ということになります。変動するユーザーの要求、あるいはオペレーティング・システム (OS) の更新が原動力の場合でも、変化が必要になり、アプリの持続可能性を達成するには、IT は以下の点を検討する必要があります。

- フロントエンドのアプリの機能性は、ユーザーが求める新機能を搭載できるほど適応力があるだろうか?
- ゼロデイ・アップデートを準備して、OS をアップグレードした直後のユーザーに対処できるだろうか?
- ユーザー・アプリのコラボレーションと発見のプロセスは?
- ユーザー・フィードバックに対処して継続的な設計と開発を行う準備はできているだろうか?

## セキュリティー対策は後回しにせずに、あらゆる段階で検討する!

第 3 部『アプリケーションのセキュリティー危機への対処方法』では、最後に取り上げることになりますが決して軽んじてはならないこと - ビジネス用アプリケーションへのセキュリティーのサポートについて考えます。<sup>3</sup> いい加減なデータ保管方法、マルウェア、不正アクセス、暗号化の未使用、データ漏洩のため、モバイル・アプリは次第に、企業におけるセキュリティーの脆弱性の原因となりつつあります。

Gartner の予測によると、2015 年を通じてモバイル・アプリケーションの 75 パーセントが基本的なセキュリティー・テストに不合格で、企業ネットワークへの侵入をもくろむハッカーの侵入点となる可能性があります。<sup>4</sup> 最近のマスク攻撃は、<sup>5</sup> ユーザーのデバイスで外観からは検出不能な悪意のあるアプリで企業の正式なアプリを上書きします。検出できないのは、正式なアプリとして偽装するためです。

ビジネス用アプリが普及するに伴い、企業データとネットワークへの脅威も広がります。したがって、開発と導入のあらゆる段階でセキュリティー対策について考え、適用することが必要です。

IBM® MaaS360® ポートフォリオの他のソリューションと併せて MaaS360 を使用すると、拡張性、持続可能性、セキュリティーを実現しながらビジネスを推進するモバイル・アプリケーション戦略を構築できます。企業のモバイル・アプリの世界を最大限に活用する方法については、[IBM](#) に今すぐお問い合わせください。

ビジネス用アプリケーションの備えはできていますか? 本シリーズの他のドキュメントも是非ご覧ください。

- **第 1 部**: 『[ビジネス用アプリケーション](#)』。アプリ主導型の従業員の生産性とコラボレーション、企業の成長、顧客エンゲージメントを見事に実現する IT の役割、企業におけるアプリケーションの活用方法を探求しましょう。
- **第 3 部**: 『[アプリケーションのセキュリティー危機への対処方法](#)』。アプリベースのビジネスを構築、実装しながら、企業の力のいかに発揮し、企業を適切に保護するための技術的、実践的な考慮点を理解してください。

## 関連資料

- 『Mobilize Your Corporate Content and Apps』<sup>6</sup>
- 『Good Apps, Bad Apps: The ROI of Creating Exceptional Mobile Moments』<sup>7</sup>
- 『Four Tips for Protecting the Enterprise Against Mobile App Threats』
- 『モバイル・アプリケーション・ライフサイクル管理のベスト・プラクティス』<sup>8</sup>
- オンライン・セミナー: 『Design, Develop and Deploy Mobile Apps』
- 『IBM® MaaS360® Mobile Application Management』

## IBM MaaS360 について

IBM MaaS360 は、業務のあり方に合わせて生産性とデータ保護を実現するエンタープライズ・モビリティ管理プラットフォームです。モバイル・イニシアチブの基盤として多数の組織から信頼されています。MaaS360 は包括的な管理機能を提供し、ユーザー、デバイス、アプリ、コンテンツへのセキュリティーを強かに制御することで、どのようなモバイル導入もサポートします。IBM MaaS360 の詳細と 30 日間の無料トライアルのご利用については、次の Web サイトをご覧ください。

[www.ibm.com/maas360](http://www.ibm.com/maas360)

## IBM Security について

IBM のセキュリティー・プラットフォームはセキュリティー・インテリジェンスを提供して、組織が人々、データ、アプリケーション、インフラストラクチャーを包括的に保護できるように支援します。IBM は、ID およびアクセス管理、セキュリティー情報およびイベントの管理、データベース・セキュリティー、アプリケーション開発、リスク管理、エンドポイント管理、次世代侵入保護などのためのソリューションを提供しています。IBM は、世界で最も幅広くセキュリティー研究開発を行い、セキュリティーを提供している組織の一つです。詳細は、以下をご覧ください。

[www.ibm.com/security](http://www.ibm.com/security)

メモ



© Copyright IBM Corporation 2016

IBM Corporation  
Software Group  
Route 100  
Somers, NY 10589

Produced in Japan March 2016

IBM, IBM ロゴ、ibm.com、および X-Force は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。BYOD360™、Cloud Extender™、Control360®、E360®、Fiberlink®、MaaS360®、MaaS360® とデバイス、MaaS360 PRO™、MCM360™、MDM360™、MI360®、Mobile Context Management™、Mobile NAC®、Mobile360®、MaaS360 Productivity Suite™、MaaS360® Secure Mobile Mail、MaaS360® Mobile Document Sync、MaaS360® Mobile Document Editor と MaaS360® Content Suite、Simple. Secure. Mobility.®, Trusted Workplace™、Visibility360®、We do IT in the Cloud.™ とデバイスは、IBM Company の系列企業、Fiberlink Communications Corporation の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または他社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストは、Web 上の『著作権および商標情報』[ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://ibm.com/legal/copytrade.shtml) でご覧いただけます。

本資料は最初の発行日の時点の内容であり、IBMにより予告なしに変更される場合があります。すべての製品が、IBM が営業しているすべての国で販売されているわけではありません。

性能データとお客様の事例は、説明目的のみのために提示しています。実際の性能結果は、特定の設定や運用条件によって異なる場合があります。ユーザーは、IBM 製品およびプログラムと他の製品またはプログラムの動作を評価し検証する責任があります。

この文書は、“現状のまま”で提供され、どのような表明も保証も、明示的・暗黙的を問わず行いません。すなわち、この文書の内容が、どのような製品も、任意の目的に適していること以外でもいかなる保証もせず、その他の権利も侵害しないことを含みます。IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

適用されるすべての法令と規則の順守は、お客様の責任範囲とします。日本 IBM は、法律上の助言を提供することはいたしません。また日本 IBM のサービスまたは製品が、お客様においていかなる法を順守していることの裏付けとなることを表明し、保証するものでもありません。

IBM の将来の方向性および指針に関する記述は、予告なく変更または撤回する場合があります。

確実なセキュリティ体制への取り組みについて:IT システムのセキュリティでは、社内外の不適切なアクセスの防止策、検出、対応に取り組むことで、システムと情報を保護しています。不適切なアクセスにより、情報が改ざん、破壊、または不正流用される可能性があり、システムへのダメージや他者への攻撃といったシステムの悪用が生じることがあります。IT システムまたは製品によってセキュリティ対策が万全になると考えることは危険であり、1 つの製品またはセキュリティ対策で不正アクセスを完全に有効に防ぐことはできません。IBM のシステムと製品は、包括的なセキュリティ・アプローチの一部として設計されています。そのため、運用手順を追加することがどうしても必要となり、効果を最大限に高めるには、他のシステム、製品、サービスが必要になることがあります。IBM は、システムと製品が他者による悪意のある行為または不正行為から免れることを保証するものではありません。



リサイクルにご協力ください

1 IBM Security 『アプリとビジネスは一心同体 第1部:ビジネス用アプリケーション』, 2015, <http://www.ibm.com/common/ssi/cgi-bin/ssialias?subtype=WH&infotype=SA&htmlfid=WGW03105USEN&attachment=WGW03105USEN.PDF>

2 Westacott, Robbie 『The Global State of Enterprise Mobility Report 2014/2015』Enterprise Mobility Exchange, 2014年12月3日、<http://www.enterprisemobilityexchange.com/the-global-state-of-enterprise-mobility-report>

3 IBM Security 『アプリとビジネスは一心同体 第3部:アプリケーションのセキュリティ危機への対処方法』, 2015, <http://www.ibm.com/common/ssi/cgi-bin/ssialias?subtype=WH&infotype=SA&htmlfid=WGW03107USEN&attachment=WGW03107USEN.PDF>

4 『Gartner Says More than 75 Percent of Mobile Applications will Fail Basic Security Tests Through 2015』Gartner, 2014年9月14日、<http://www.gartner.com/newsroom/id/2846017>

5 IBM Security Intelligence 『Four Tips for Protecting the Enterprise Against Mobile App Threats』2015年2月11日、<https://securityintelligence.com/four-tips-for-protecting-the-enterprise-against-mobile-app-threats/>

6 IBM Security 『Mobilize Your Corporate Content and Apps』, 2015, <http://www.ibm.com/common/ssi/cgi-bin/ssialias?subtype=WH&infotype=SA&htmlfid=WGW03111USEN&attachment=WGW03111USEN.PDF>

7 『The ROI of creating exceptional mobile moments』IBM から Forrester への委託調査、IBM MobileFirst, 2014年、<http://www.ibm.com/mobilefirst/us/en/good-apps-bad-apps.html>

8 IBM Security 『モバイル・アプリケーション・ライフサイクル管理のベストプラクティス』, 2015, <http://www.ibm.com/common/ssi/cgi-bin/ssialias?subtype=WH&infotype=SA&htmlfid=WGW03110USEN&attachment=WGW03110USEN.PDF>